

2026 年 5 月 22 日

学校法人三幸学園
神戸元町医療秘書専門学校
校長 吉田 尚美 殿

学校関係者評価委員会
委員長 山科 しおり

学校関係者評価委員会実施報告

2025 年度学校関係者評価について、下記のとおり評価結果を報告します。

記

1 学校関係者評価委員

- ① 金村 昌幸 （社会医療法人社団 順心会 課長補佐）
- ② 矢野 唯花 （第 9 期卒業生）
- ③ 山科 しおり （飛鳥未来きずな高等学校 神戸キャンパス 副教頭）

2 学校関係者評価委員会の開催状況

2026 年 5 月 22 日（会場 神戸元町医療秘書専門学校 502 教室）

3 学校関係者委員会報告

以下「自己評価・学校関係者評価報告書」に学校関係者評価委員会コメントとして記載

以上

2025 年度 学校法人 三幸学園 神戸元町医療秘書専門学校 自己評価ならびに学校関係者評価報告書

自己評価報告責任者：副校長 佐々木領矢

学校関係者評価報告責任者：学校関係者評価委員会委員長：山科しおり

学校関係者評価委員：金村 昌幸

学校関係者評価委員：矢野 唯花

1. 学校の教育目標

学園のビジョン「人を活かし、日本をそして世界を明るく元気にする」、ミッション「人を活かし、困難を希望に変える」のもと、医療分野の学校として「医療・福祉・保育現場を通じて、日本を明るく元気にする」というビジョンを掲げている。

また「技能と心の調和」を教育理念とし「素直な心、感謝の気持ち、高い意欲を持ち続け、自ら考え、自ら行動することで、社会に貢献する人材」、医療分野として「相手のこうしてほしいを理解し、考え続ける人材」を育成する人物像とし、専門学校として社会・業界に求められる人材の育成を進めている。

2. 前年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

① 前年度重点施策振り返り

教務スローガン：想いを1つに

教務_退学率目標：7%未満、結果：3.0%

広報_募集目標：90 名、結果：86 名

② 学校関係者評価委員会コメント

特になし

3. 評価項目の達成及び取組状況

(1) 教育理念・目標

【評価項目】（評価＝適切：4、ほぼ適切：3、やや不適切：2、不適切：1）	評価
学校の理念・目的・育成人材像は定められているか（専門分野の特性が明確になっているか）	4
社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	4
学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが生徒・保護者等に周知されているか	4
各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	3

① 課題

学校としての教育目標や学科ごとの目指す人材育成像の設定はできているが、具体的な評価と体現に繋がっていない。

② 今後の改善方策

定期的な評価実施と評価から抽出される課題を計画的に取り組み、目指す人材育成像に一層近づけられる教育を行っていく。

③ 特記事項

なし

④ 学校関係者評価委員会コメント

【人材育成像について】

金村委員 現場の声を聴くと一定レベルの知識・技術はクリアしている前提で考えている。近年、人材を選定するときに注目しているところは、コミュニケーション能力がどれくらい備わっているかを見ている。現場では、病院の窓口になることが多い職種ということ、また、働くうえで一緒に働きたいと思えるようなコミュニケーション能力が大事になってくる。特に、自分から考えて動ける、相手の立場に立って物事を考えることができる人材を求めている。将来、医療事務員として、患者と看護師・医師の橋渡しの存在になるので重要な能力になる。

(2)学校運営

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
目的等に沿った運営方針が策定されているか	4
事業計画に沿った運営方針が策定されているか	4
運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	4
人事、給与に関する制度は整備されているか	4
教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	4
業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	4
教育活動に関する情報公開が適切になされているか	4
情報システム化等による業務の効率化が図られているか	3

① 課題

業務の効率化を図ってはいるがより効果的な情報システム化が必要である。

② 今後の改善方策

ICT 授業ツールの浸透、授業準備や授業実施における効率化も図る。

③ 特記事項

なし

④ 学校関係者評価委員会コメント

【ICT の活用による業務の効率化について】

- 山科委員 高校では、生徒への配布物はすべてデータで配信している。利点としては、同じタイミングで情報を得ることができるし、生徒への渡しそびれがないということ。また、教職員側としても、生徒個人個人への対応がなくなるので業務負担の軽減になっている。
- 矢野委員 研修で動画視聴を年に何回もしている。全部署・全職員が同じクオリティの研修を受けることができるし、いつでも視聴ができるので、自分の好きなタイミングで研修を受けることができる。
- 金村委員 病院の業務としてのシステム化はさまざま業務でしており、職員も業務としてもシステム操作には慣れているが、オンラインでの年末調整などの個人的な業務に関しては苦戦している人が多いように見受けられる。そこは、病院側として課題に感じている部分になるので、もう少し業務外のオンラインに対する研修を実施したいと考えている。

(3)教育活動

【評価項目】（評価＝適切：4、ほぼ適切：3、やや不適切：2、不適切：1）	評価
教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	4
目標の設定として、教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育機関としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4
学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4
キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	4
関連分野の企業・関係施設等、業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	4
関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技・実習等）が体系的に位置づけられているか	4
授業評価の実施・評価体制はあるか	4
職業に関する外部関係者からの評価を取り入れているか	4
成績評価・単位認定の基準は明確になっているか	4
資格（免許）取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4
人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保し、組織できているか	4
関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務・兼務含め）の提供先を確保するなどマネジメントが行われているか	3
関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	3
職員の能力開発のための研修等が行われているか	4

① 課題

業界との連携は引き続き強化していく必要がある。

指導力育成など資質向上のための研修は実施できているが、関連分野の先進的な知識・技術を修得するための研修は十分ではない。

② 今後の改善方策

実習や行事だけではなく授業においても関連分野の業界と連携できるよう計画を進める。

関連分野の先進的な知識・技術を修得するための研修の計画を進める

③ 特記事項

なし

④ 学校関係者評価委員会コメント

【関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修の実施について】

矢野委員 入職後、医療事務員としての研修を受けたが、在学中に学んだマナーや対人接遇の授業内容と似通っている内容の研修だった。在学中に同じようなことを先に学べたのは、とても良い勉強になった。現場の実際の研修では、医療事務員は、技術的なことより患者さんへの接し方の研修の方が多い。

また、在学中に学んでおいたら良かったと思うことは、難病手帳についての書き方などの実務系の内容もう少し学んでおいた方がいいと思った。

金村委員 研修の内容は各部署で考えている。対面での研修は勤務時間内で実施するように徹底している。時間外だと参加できない人もでてくるので、全員が参加できる環境作りを考えている。

山科委員 高校では、教員としての本来の仕事である「生徒に教える」ということをメインにした研修をしたいところではあるが、授業関係ではないハラスメントや発達障害についての研修を優先してしまっている現状がある。もちろん、そのような研修も自己研鑽として大事な研修ではあるが、そう少し教育に関する研修をしていきたい。ただ、教育に関する研修となると、依頼先など研修の準備事態も難しいところが課題である。

(4)学修成果

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
就職率の向上が図られているか	3
資格（免許）取得率の向上が図られているか	4
退学率の低減が図られているか	4
卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	3
卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	3

① 課題

前年比で大幅に退学率の向上を図ることができたので、継続できるよう教務体制を整えていくことが重要。卒業生の状況を把握しきれていない。

② 今後の改善方策

複数担任制の促進と効果的運用を行うとともに、スクールカウンセラーを効果的に活用していく。
卒業生とのネットワークの構築のために、卒業生が就職してお世話になっている医療機関への訪問を積極的に行っていく。

③ 特記事項

なし

④ 学校関係者評価委員会コメント

《現在の若者のキャリア形成の学習タイミングについて》

山科委員 入学後から行事ごとに学年に合わせたキャリア形成の話をしている。年々、自分で決めることができない子が多くなってきている傾向があると感じる。最終の判断をするときに誰かに後押ししてもらわないと決断できないというような生徒が増えている。そのため、保護者や進学希望先の先生方も巻き込んで進路決定を促している。

金村委員 看護師は看護協会主催の勉強会でキャリアのステップアップ像を示されているようで、看護師のみなさんは自分たちのキャリア形成が確立できているが、医療事務員はそういったものがないので確立されていない。また、医療事務員を希望している本人たちからも質問もされることがない。入職後も目の前の仕事に追われてしまうためキャリアについて考えるタイミングがない。また、病院側も明確にキャリア形成について提示できていないのは課題と感じる。職種によっては、リーダーになるための研修がある場合もあるが、役職に就いていないひとの研修がないので難しいところもあるのかもしれない。

矢野委員 入職するまではキャリア形成について考えたことがなかった。しかし、入職して実際に働いている人たちを見ると役職についてしっかりキャリア形成を実現している人たちに憧れるようになった。在学中にキャリアアップした卒業生から話を聞く機会があれば考え方が変わったかもしれない。

(5) 学生支援

【評価項目】（評価＝適切：4、ほぼ適切：3、やや不適切：2、不適切：1）	評価
進路・就職に関する支援体制は整備されているか	4
学生相談に関する体制は整備されているか	3
学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか	4
学生の健康管理を担う組織体制はあるか	4
課外活動に対する支援体制は整備されているか	4
学生の生活環境への支援は行われているか	4
保護者と適切に連携しているか	4
卒業生への支援体制はあるか	3
中途退学者への支援体制はあるか	4
社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	4
高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	4

① 課題

クラス担任制で担任が主に生徒状況の把握を行っているが、生徒の多様化に対応し切れていないケースが多くなり、適切な相談対応が十分ではない。

卒業生への支援体制は一部構築しているが、十分に活用できていない。

② 今後の改善方策

スクールカウンセラーの運用体制見直し(機会の拡張)と、連携の強化を図る。

卒業生支援体制の活性化を図る。

③ 特記事項

なし

④ 学校関係者評価委員会コメント

【相談体制について】

金村委員 施設ごとに相談窓口があるが、利用率は低い。窓口を担当しているのが職員なので、職員同士でのやり取りが壁を作っている。相談窓口を使わずに、同僚の中で相談してしまい、管理職まで声が届かないことが多い。そのような状況だと、実際に問題が起こったときに、状況把握に時間が要し、職場環境の改善などの対処方法に困ることがある。現状の同僚同士での相談だと、匿名性を保てない状況になってしまっているため、そこが課題になっている。

矢野委員 在学中は、クラスや委員の友達同士で相談しており、カウンセラーなどの第三者に相談することはなかった。担任の先生には愚痴を聞いてもらっていたぐらいだったが、それでも心は

軽くなった。

今は、同じ職場の人に自分から言うのは抵抗があったが、職場の先輩から話しかけて貰えてやっと相談できた。また、悩んでいるタイミングで学校の同窓会があり、で久しぶりに会った先生に相談できた。

働き出して入職後すぐか半年くらいが一番しんどい時期だったので、先生がそのタイミングで会いに来てくれると嬉しい。

山科委員 卒業生には、同窓会を開催し、そのタイミングで卒業後の話を聞くようにしている。また、姉妹校へ進学した生徒へは進学先に聞くことができるような体制を取っている。学校より積極的にアプローチすることはないが、卒業後も兄弟や保護者から相談があれば、時間を作って相談を受けることもある。教員だけではなく、友達や同僚などでも誰でもいので相談できる体制を作ることが大切だと思う。

【離職について】

金村委員 離職に関しては、1年は続いている印象がある。離職をする場合は、将来を考えて辞める人もいる。それ以降は結婚などで辞める人が多い印象。看護師は自分のキャリアアップのために辞める人はいるが、医療事務員はキャリアアップのために辞める人はいない。

(6)教育環境

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	4
学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	4
防災・安全管理に対する体制は整備されているか	3

① 課題

避難訓練や不審者対策講習は年に1度程度であり、継続的な実施ができていない。

② 今後の改善方策

防災・防犯対策については半期に1度以上の実施を行う。

③ 特記事項

なし

④ 学校関係者評価委員会コメント

【防災訓練の実施について】

山科委員 生徒全員で避難訓練を実施することは難しい。年々、保護者のほうが防災に関して気にされる方が増えてきている。実際に生徒を引き連れて避難場所に連れていくことなどはできておらず、地図を見て経路を確認するのみに終わっている。年々、生徒数も増えていることも

あり、教職員も生徒も安全意識をもっと高めていく必要があると感じている。

矢野委員 年に1度、病院で実施している。消火器の使い方や、避難経路の確認などをした。ただ、患者さんを巻き込んだ避難訓練ではなく職員のための訓練だったので、実際災害が起きた時のことを考えて、患者さんと一緒に避難訓練ができればいいと思う。

金村委員 防災訓練は実施しているが、患者さんや夜勤の職員は参加できていない。実際に災害が起きたときに参加できていない職員が多かった時を考えると怖いと思う。どうしても患者さんを巻き込んだ訓練は難しいところがあるので、今後の訓練の在り方を検討しないといけないと感じる。

(7) 学生の受入れ募集

【評価項目】（評価＝適切：4、ほぼ適切：3、やや不適切：2、不適切：1）	評価
学生募集活動は、適正に行われているか	4
学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	3
入学選考は、適性に行われているか	4
学納金は妥当なものとなっているか	4

① 課題

継続的、安定的な入学者の確保。
入学前後のギャップの解消。

② 今後の改善方策

教育活動と連動した広報活動を行うことで、学校のブランド力を強化していく。
高等学校の職業教育と連携した広報活動を行っていく。

③ 特記事項

なし

④ 学校関係者評価委員会コメント

【現在の進路活動状況について】

山科委員 まずはオープンキャンパスに行かせている。高校2年生よりオープンキャンパスに参加させて、2年生終わりには進学先を決定できている状態になるように指導している。現状としては、進学7割、就職・アルバイト3割ぐらいの進路状況である。
医療事務員の職業に関しては、医療事務員としての仕事を初めから知っている生徒はあまりおらず、オープンキャンパスなどに参加することで働き方を知って、医療事務の仕事に就きたいと思う生徒が多い。このように、志望する職業が初めから決まっているわけではなく、進学先を選

ぶ際のオープンキャンパスに行かせることで職業イメージを付けさせることをしている。

矢野委員 高校生のときはやりたいことがなく、保育士などは勉強が大変そうだった。家族の勧めでオープンキャンパスに参加し、医療事務を知ってこの学校に入学することを決めた。

入学後に感じたギャップは、医療事務員の仕事に内容。ただの受付業務だけだと思っていたので、医療事務員が点数の算定をしているとは知らなかった。想像していた職業イメージと、入学後に知る内容との差が出てくるのは医療事務の職業の課題だと感じる。自分もオープンキャンパスのスタッフとして医療事務の職種について高校生に伝えることの難しさを感じていた。

(8)財務

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4
予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4
財務について会計監査が適正に行われているか	4
財務情報公開の体制整備はできているか	4

① 課題

【中長期計画】

なし

【予算・収支計画】

なし

【会計監査】

なし

【財務情報の公開】

なし

② 今後の改善方法

【中期計画】

なし

【財務情報の公開】

なし

③ 特記事項

2025 年度は第3期中期経営計画(2023 年度～2027 年度)の 3 年目にあたり、東京未来大学及び小田原短期大学の中期計画改定を反映し、第3期中期経営計画<第 2.0 版>を策定し年度開始時より適用した。中期経営計画及びその進捗状況はホームページ上に公開している。

④ 学校関係者評価委員会コメント

特になし

(9)法令等の遵守

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
関係法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4
個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4
自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	4
自己評価結果を公開しているか	4

① 課題

個人情報の保護に努めてはいるが徹底という意味では十分ではない。

② 今後の改善方策

個人情報に対するパスワードの設定や郵送物への記録などを強化していく。

③ 特記事項

なし

④ 学校関係者評価委員会コメント

【個人情報の取扱いについて】

金村委員 個人情報に関して、法律に沿って取り扱っているが、家族の主張が強かったりする場合は判断に悩むところがある。しかし、明確にルールが決まっているので、必ずルールに則て扱うことを徹底している。

山科委員 個人情報などの個人名が記載されているものがある場合は紙で出力ことをせず、データで取扱うことを心がけている。また、氏名の表記をせず、学籍番号で表記するなどの工夫をしている。

矢野委員 電話対応や受付での問い合わせで個人情報を聞かれることが多い。ルールに則るしかないのでお断りをするが、家族のことを思うと心が痛む。

(10)社会貢献・地域貢献

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	3
生徒のボランティア活動を奨励、支援しているか	3
地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか	4

① 課題

地域貢献活動を推進しているが、実施回数は多くない。
外部と関わるボランティアの機会を十分に提供できていない。

② 今後の改善方策

地域支援・産学連携の活動を、現場実習・卒業生が就業先としてお世話になっている医療機関と共に計画・実施していく。
ボランティア情報を集める仕組みを構築する。

③ 特記事項

なし

④ 学校関係者評価委員会コメント

《地域との連携やボランティア受け入れについて》

金村委員 コロナ前は地域の学校やさまざまな施設と連携し、催し物を行っていた。しかし、コロナが流行し、感染リスクなどを考えて中止になってしまった。病院と一般人との感染リスクの認識のずれがあるため一度中止になると再開することが難しい。外部を呼ばず、内部だけのイベントは行っている。看護協会を通して等のルールがきちんと決められている場合は受け入れをしていることもある。

矢野委員 過去に子供向けのイベントを実施していたと聞いたことはあるが、今はしていない。

山科委員 外部が開催しているボランティアに自ら応募して参加している生徒はいるが、学校として募集はしてない。行っていることとすれば、内部の中等部の生徒への学習支援ボランティアを実施している。しかし、在校生は、大学試験のためや、自分の経験を積むことを目的にボランティアをしたい生徒は多い。姉妹校を通してのボランティア活動はしやすいので、今後増やしていきたいと思う。

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

現場に送り出す側として、知識や技術はもちろんではあるが「コミュニケーション力」の大切さを改めて確認することができた。昨今は大人・こども問わず多様な価値観の尊重が一層重視され、多様性への対応も同時に求められている。当然ながら医療現場においても一層多様性への対応が求められるとともに、その難しさも課題として多く挙げられている。今後もそのような現場へ人材を送り出す養成校として、現場の方々と密な連携・意見交換を継続させていただき、適切かつ社会に求められる人材を養成する学校運営を行っていく。

また、今回いただいた意見は担任を通して学生に還元していき、お世話になっている卒業生に向けてすることも実施していきたい。